



第22回 Wリーグ

Women's Japan Basketball League

SEASON REPORT

2021年
一般社団法人バスケットボール女子日本リーグ





昨シーズン（第21回）のWリーグは、東京オリンピック2020へ向けての機運を高めるための重要な大会であったが、新型コロナウイルスに代表される各事象により、プレーオフを含む、従来通りの日程を消化することができず、順位決定もされないまま、シーズンが終了するという激動の年となった。

迎えた本シーズン（第22回）も、依然として新型コロナウイルスの見える脅威の中ではあったが、全チーム一丸となり、リーグ戦の成立に向けてスタートを切った。本来であれば「普及」と「強化」の旗印の下、日本全国のPBAが主管者として開催を行うことがWリーグの標準的なスタイルではあったが、今期はすべての試合をWリーグが主管し、PBAがその運営協力を行う、という新しいスタイルに踏み切った。またチームの移動を最小限にとどめるべく「**東西2カンファレンス制**」を導入。そして「**1節2会場1日3試合実施**」という集中開催により、開催地における過不足のない均一的なコロナ対策を目指すこととなった。

政府のイベント実施のガイドラインに基づき、**大会実施における運営ガイドライン**を作成。またソフトバンク社の協力により1シーズン6回にわたる公式PCR検査を実施させるなど、通常のシーズンとは大きく異なる中、2020年9月18日に第22回大会は無事に開幕を迎えることとなった。

11月上旬までの前半戦は東西会場ともに大きなトラブルもなく開催し、リーグ成立の条件となる50%の日程消化を達成するも、年明けとともに再び新型コロナウイルスの第2波が到来。日立ハイテククーガーズでは関係者含み合計17名のクラスター感染が発生。続いて富士通レッドウェーブの2選手が陽性となり、首都圏でも再び緊急事態宣言下となったことを受け、Wリーグも東地区2節12試合に加えオールスターゲームの中止を余儀なくされた。その後、緊急事態宣言下の中ではあるが更なるガイドラインの見直しを経て、リーグ戦は再開する。

WITHコロナというタフなシーズンではあったが選手が質の高いプレーを見せ、リーグ戦は近年にない混戦となる。中でもヘッドコーチに元日本代表HCの内海氏を迎えた日立ハイテククーガーズは皇后杯ベスト4の勢いそのままに久しぶりのプレーオフ進出を決め、後半ではアーリーエントリー選手を大胆にスタメン起用したシャンソン化粧品が女王ENEOSに土をつけるなど、最終節まで最終順位が決まらないという、**近年稀に見る実力拮抗のレギュラーシーズン**となった。

（次頁につづく）



事業報告 | 概要

迎えたプレーオフ豊田ラウンドではレギュラーシーズン上位の富士通とデンソーがともに勝ち抜き、最終的には東西の1・2位が出揃うベスト4となる。代々木ラウンドセミファイナルでは、大エース渡嘉敷らをけがで欠いたENEOSが、絶体絶命のピンチから大逆転でデンソーを下し、トヨタ自動車も富士通の猛追を振り切り、ファイナルは東西の横綱同士の組み合わせとなった。

迎えたファイナルではトヨタ自動車が豊富なタレント陣で突き放しにかかるも、女王の意地を見せるENEOSが食らいつくという、国内女子バスケットボールの最高レベルの熱戦を繰り広げたが、皇后杯での逆転負けの教訓を生かし、最後まで集中力を切らさなかった**トヨタ自動車が2連勝し、悲願の初優勝**を決めた。

前述の通り、「東西集中開催による開催接点数の大幅な減少」、「イベント実施の政府方針に伴う入場者数制限」、「レギュラーシーズン2節12試合の中止」、「企業による現地アリーナでの観戦自粛の方針」等により、**総観客動員数は22,896人**にとどまり、前年比は24.7%（前年 92,718人）という厳しい数字に終わった。1開催当たりの平均入場者数も、上記の事象が響き 521人 ※前年比46.6%（前年 1,117人）と、大きく下回る結果となった。

今期においては、リーグの財務は逼迫したものの、最低限の目標であるリーグ戦の完遂を果たせたことに安堵するとともに、コロナの一刻も早い終息を願いつつ、来たる東京オリンピック2020および、第23回大会が平常な状態で開幕できるようリーグとしても粛々と準備を進めてまいります。



本シーズンのリーグレギュレーション①

日本全国都道府県/(47都道府県)での試合開催を断念

●Wリーグの目的

女子バスケットボールをより広く国民に《普及》させること。
選手の技術向上、チーム《強化》に努め、内外にアピールすること。

→ 左記目的に基づき、本来であれば
日本全国各地にて試合の開催を計画。

第21回 Wリーグ (2019-20 Season)
開催計画地分布図



各チームのホームタウン以外でも数多く試合を実施し、
国内トップレベルのプレーの観戦機会を創出することで競技の普及に努めています。

しかしながら本年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため
全ての試合をリーグ主管とし、PBAでの主管による開催を断念しました。



本シーズンのリーグレギュレーション②

東西カンファレンス制および集中開催の採用

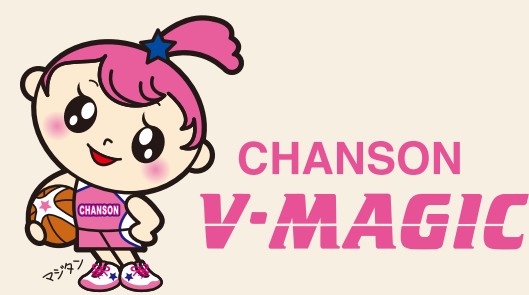
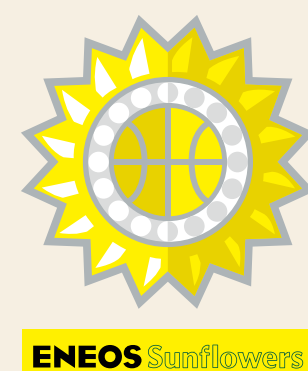
従来：全12チーム2回戦総当たり → 今大会：地区ごと4回戦総当たり ※レギュラーシーズンは地区間対戦のみ

東地区

(イースタンカンファレンス)

6チーム

ENEOSサンフラワーズ
富士通レッドウェーブ
シャンソン化粧品 シャンソンVマジック
東京羽田ヴィッキーズ
日立ハイテククーガーズ
新潟アルビレックスBBラビッツ



コロナ対策の徹底
円滑な試合運営

国内移動リスクの軽減

使用会場の絞り込み

同一カンファレンス内での
総当たり方式

東西各1会場での
集中開催

西地区

(ウェスタンカンファレンス)

6チーム

トヨタ自動車アンテロプス
トヨタ紡織サンシャインラビッツ
デンソーアイリス
三菱電機コアラーズ
山梨クィーンビーズ
アイシン・エイ・ダブリュ ウィングス



本シーズンのリーグの取り組み

[チーム・選手の安全確保]

1 東西カンファレンス制の採用

2 PCR検査(リーグ公式)の実施

対象者：出場全チームにおいて毎試合ベンチ入りする者
(選手・HC・各コーチ・TR・MGR・GM・部長)
Wリーグ担当審判員およびWリーグ事務局員

※Wリーグ指定のレギュレーションに従い実施

3 アプリ『アトレータ』を用いた 「健康管理日報」「行動記録」の共通利用



「アトレータ」
エムティーアイ社提供の
Wリーグ推奨コンディション管理アプリ



- 日々の体温
- 行動記録
- コンディションの管理

[来場者の安全確保]

1 運営ガイドラインの作成

新型コロナウイルス感染症の感染予防および対処について
Wリーグ選手、関係者としての行動指針を示し、
安全にWリーグ公式戦を実施するために意識を統一。

Jリーグ、Bリーグ他、各種競技団体と情報を共有し
vsコロナを念頭に置いた運営ガイドラインを作成。

※医療アドバイザーとして
東京通信病院 名誉病院長／平田 恭信 先生
東京通信病院 呼吸器内科／稲葉 敦 先生
より、医学的見地からアドバイスを頂いた

2 すべての来場者向け 「非接触型体温自動検知システム」を導入など



「非接触型体温自動検知システム」を導入。

- 立ち止まることなく、1秒以内に検温が可能
- 10人以上の同時検温が可能
- マスクをしていても顔認識が可能

また、これ以外にも
消毒液・フェイスシールド等を整備。

第22回 **W**リーグ SEASON REPORT

入場者状況

Women's Japan Basketball League

入場者数推移／入場者数ランキング



入場者数推移

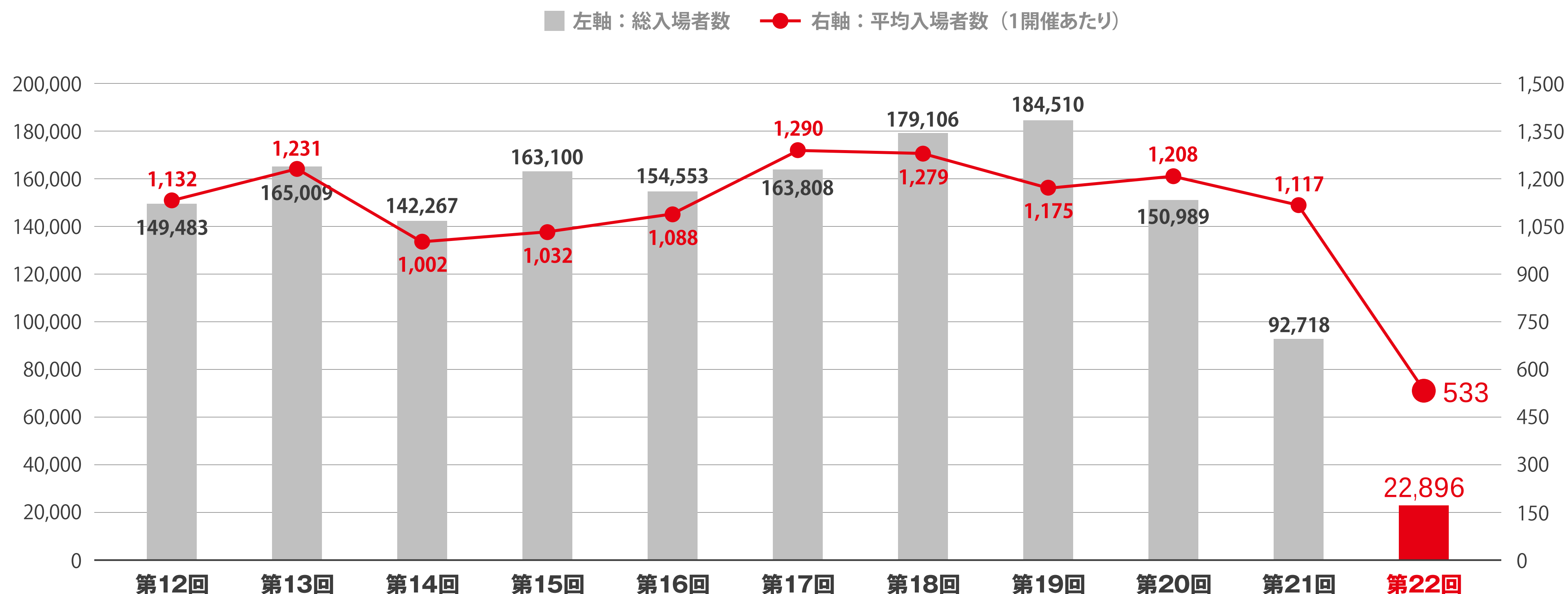
※第22回大会(2020-21 Season)終了時

総入場者数 **22,896人** (前年比24.7%)

平均入場者数 **533人** (前年比47.7%)

※1開催あたり

新型コロナウイルスに伴い東西集中開催を実施
→ 興行数は平常時の**約1/3**に減少
チーム企業応援および中高生観戦の自粛





開催別入場者数ランキング

シーズン最多入場者数1,182人

2021年3月14日 Wリーグ プレーオフ・セミファイナル1日目

RANK	日付	会場	対戦カード	入場者数
1	2021/3/14	国立代々木第二体育館	プレーオフ・セミファイナル1日目	1,182人
2	2021/3/21	国立代々木第二体育館	プレーオフ・ファイナル2日目	1,178人
3	2021/3/20	国立代々木第二体育館	プレーオフ・ファイナル1日目	1,007人
4	2021/3/7	スカイホール豊田	プレーオフ・クォーターファイナル	789人
5	2021/3/15	国立代々木第二体育館	プレーオフ・セミファイナル2日目	703人
6	2021/3/6	スカイホール豊田	プレーオフ・セミクォーターファイナル	689人
7	2020/9/19	ウイングアリーナ刈谷	西地区レギュラーシーズン第1節	675人
8	2020/9/20	ウイングアリーナ刈谷	西地区レギュラーシーズン第1節	610人
9	2021/2/27	スカイホール豊田	西地区レギュラーシーズン第10節	607人
10	2020/10/10	国立代々木第二体育館	東地区レギュラーシーズン第4節	581人

第22回 **W**リーグ SEASON REPORT

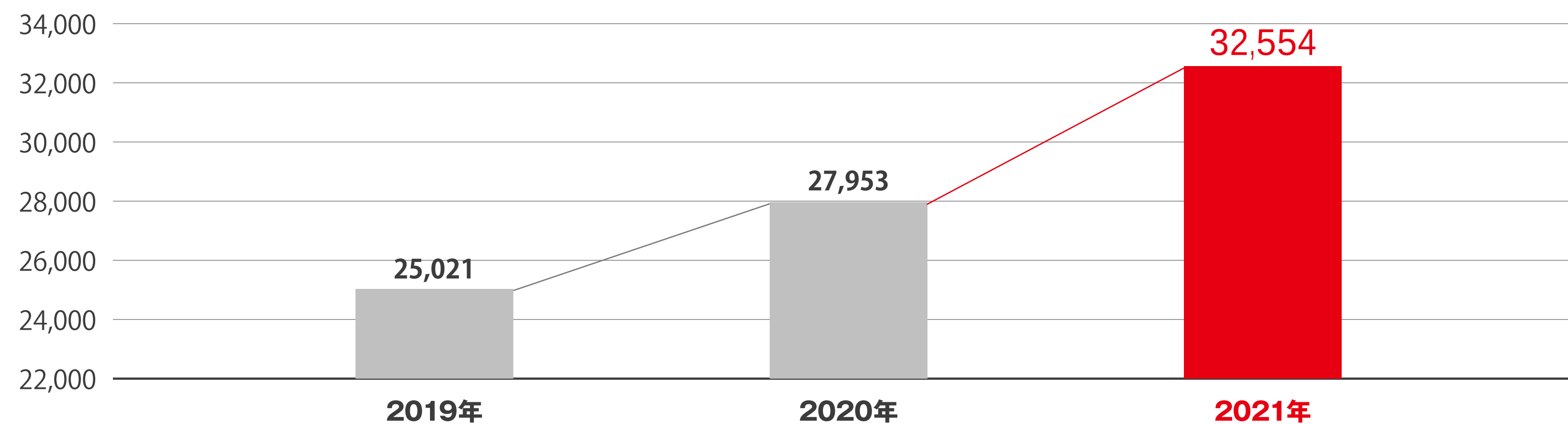
ネット視聴・SNS

Women's Japan Basketball League

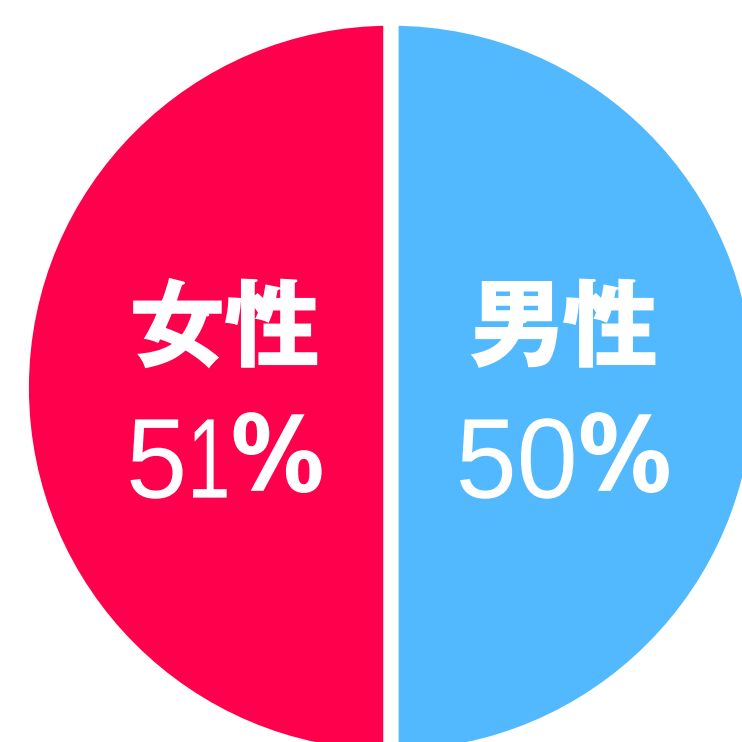
W-TV加入者／SNSフォロワー

W-TV加入者

1年間で約**4,600人**増加 (前年比**116.5%**)

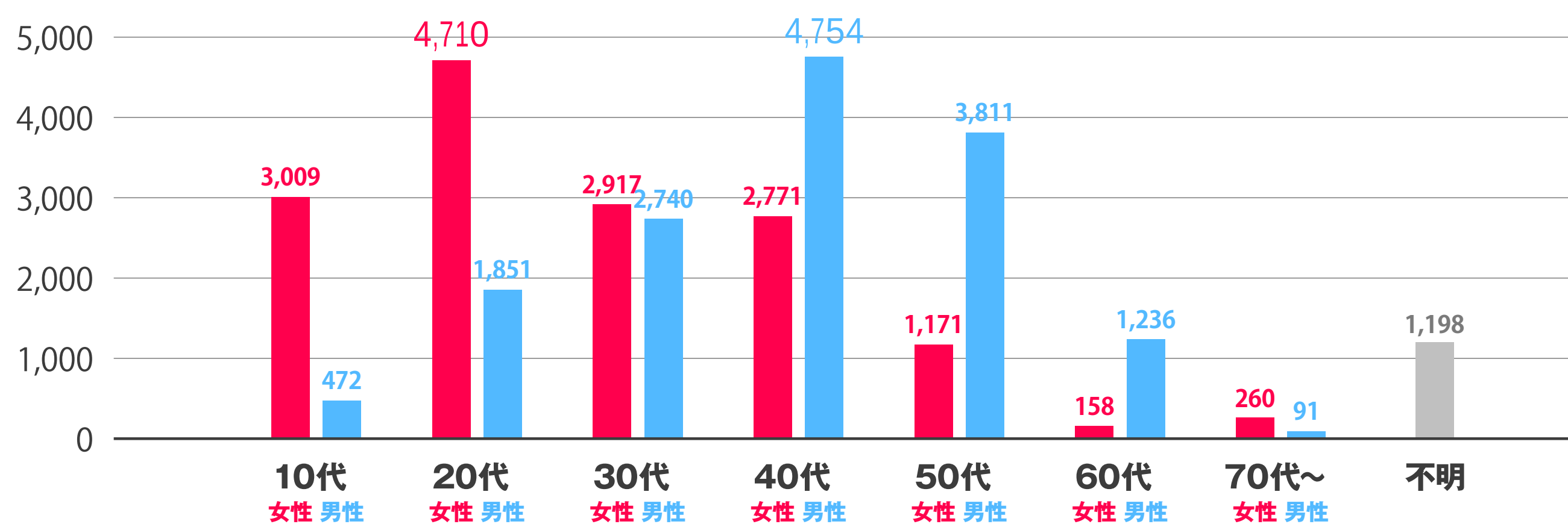


● 加入者の男女比



男性 15,561人
女性 15,534人
登録なし 54人

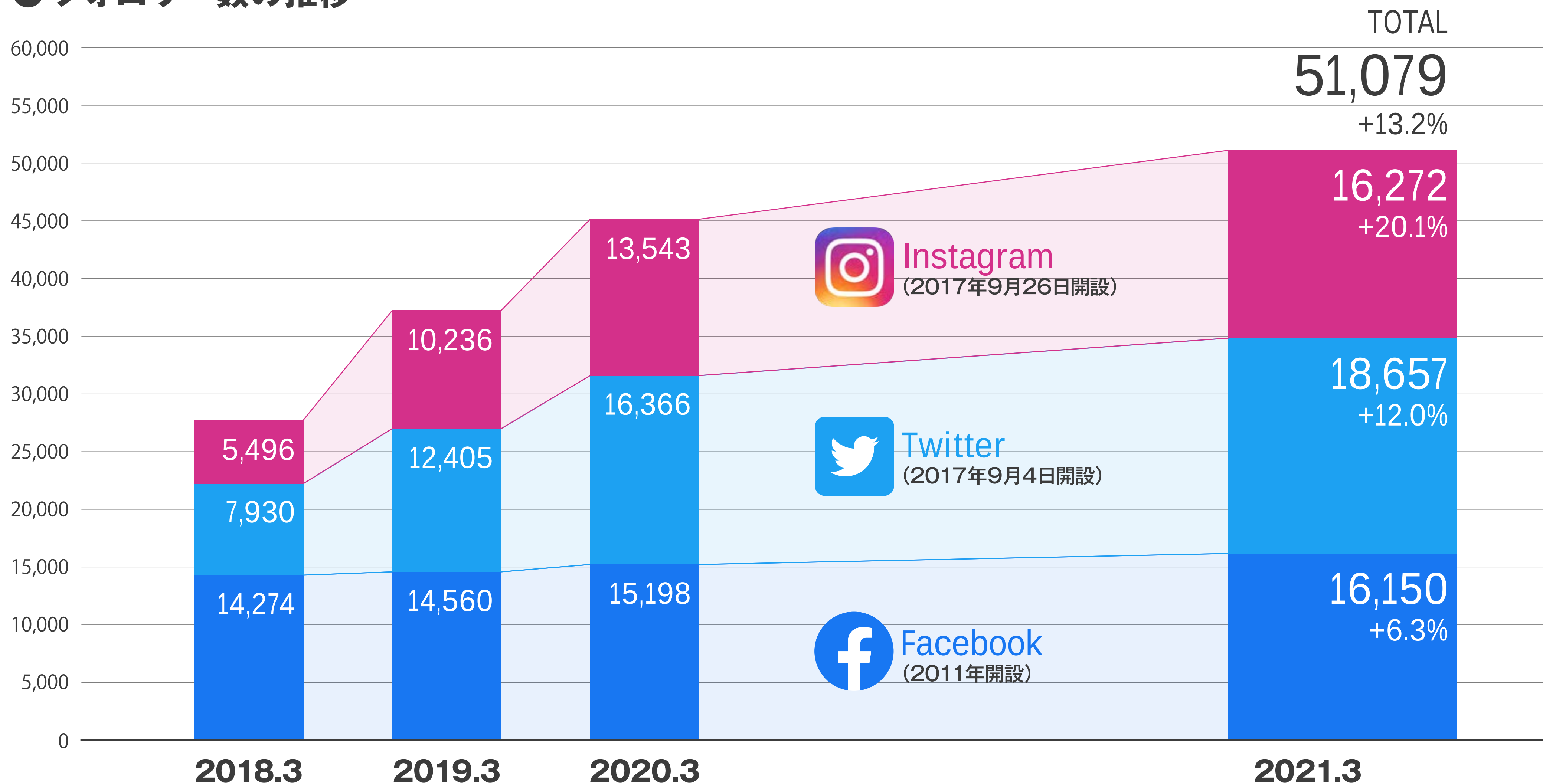
● 加入者の年齢構成



SNSフォロワー

1年間で**13.2%増加** (各SNS合計) → **底辺の拡大が課題**

● フォロワー数の推移



第22回 **W**リーグ SEASON REPORT

TOPICS

Women's Japan Basketball League

シーズン開幕戦／オールスター



第22回 Wリーグ SEASON REPORT



開幕会見～シーズン開幕戦大田大会～レギュラーシーズン



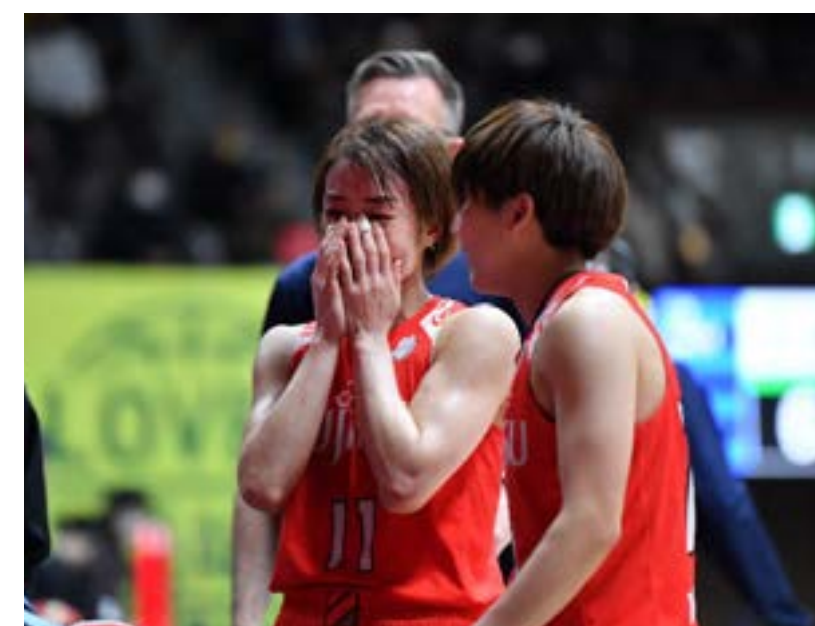
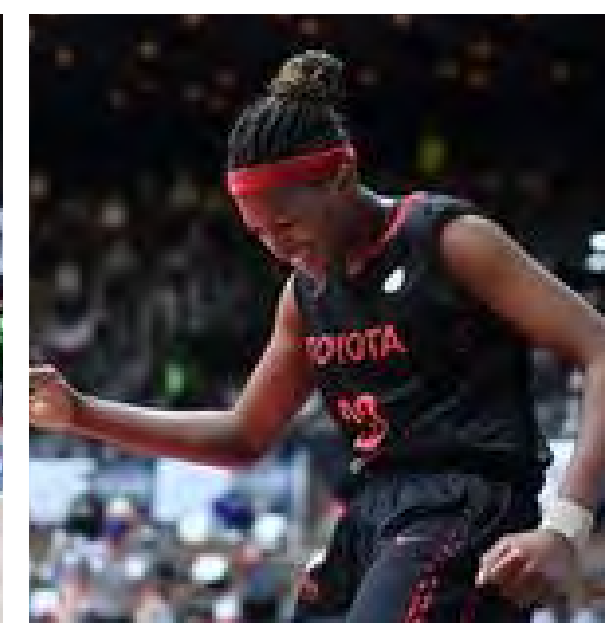


第22回 Wリーグ SEASON REPORT



プレーオフ@代々木・豊田／トヨタ自動車 初優勝・ENEOSの12連覇ならず

● 放映実績 BS1 バスケットLIVE Sportsnavi W-TV





**第22回Wリーグ全日程終了
たくさんのご声援、誠にありがとうございました**



第22回 Wリーグ SEASON REPORT
Women's Japan Basketball League